

# 四半期報告書

(第155期第3四半期)

自 平成25年10月1日

至 平成25年12月31日

東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号

**電気化学工業株式会社**

(E00774)

# 目 次

頁

表 紙

## 第一部 企業情報

### 第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2

### 第2 事業の状況

1 事業等のリスク	3
2 経営上の重要な契約等	3
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	4

### 第3 提出会社の状況

#### 1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	8
(2) 新株予約権等の状況	8
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	8
(4) ライツプランの内容	8
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	8
(6) 大株主の状況	8
(7) 議決権の状況	9

#### 2 役員の状況

	9
--	---

### 第4 経理の状況

	10
--	----

#### 1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	11
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	13
四半期連結損益計算書	13
四半期連結包括利益計算書	14

#### 注記事項

(四半期連結貸借対照表関係)	15
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)	15
(株主資本等関係)	16
(セグメント情報等)	17
(1株当たり情報)	19
(重要な後発事象)	19

#### 2 その他

	19
--	----

## 第二部 提出会社の保証会社等の情報

	20
--	----

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年2月14日
【四半期会計期間】	第155期第3四半期（自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日）
【会社名】	電気化学工業株式会社
【英訳名】	DENKI KAGAKU KOGYO KABUSHIKI KAISHA
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 吉高 紳介
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号
【電話番号】	03（5290）5512
【事務連絡者氏名】	経理部課長 山本 浩之
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号
【電話番号】	03（5290）5512
【事務連絡者氏名】	経理部課長 山本 浩之
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第154期 第3四半期連結 累計期間	第155期 第3四半期連結 累計期間	第154期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成25年4月1日 至平成25年12月31日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高（百万円）	253,779	280,421	341,645
経常利益（百万円）	14,521	16,982	17,824
四半期（当期）純利益（百万円）	8,896	11,429	11,255
四半期包括利益又は包括利益 （百万円）	8,435	14,596	15,227
純資産額（百万円）	173,932	187,552	180,709
総資産額（百万円）	415,528	435,359	415,356
1株当たり四半期（当期）純利益 金額（円）	18.65	24.42	23.63
自己資本比率（％）	41.5	42.7	43.1

回次	第154期 第3四半期連結 会計期間	第155期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年10月1日 至平成24年12月31日	自平成25年10月1日 至平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 （円）	7.65	8.53

- （注） 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業内容の変更及び主要な関係会社の異動は次の通りであります。

### <エラストマー・機能樹脂>

子会社である千葉スチレンモノマー(有)のスチレンモノマー製造事業は、当社へ移管致しました。

### <生活・環境プロダクツ>

子会社のデンカアドバンテックP. L.（シンガポール）において、合繊かつら用原糸「トヨカロン」の製造を開始致しました。

なお、当社では、平成25年4月1日付で、より市場に密着した製品展開を図るべく、分野別に4つの部門に再編を行いました。これにあわせ報告セグメント名称についても同日付で以下のとおり変更しておりますが、各セグメントに含まれる製品は従来と変更していません。

従来（平成25年3月31日まで）	変更後（平成25年4月1日より）
有機系素材	エラストマー・機能樹脂
無機系素材	インフラ・無機材料
電子材料	電子・先端プロダクツ
機能・加工製品	生活・環境プロダクツ

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社および連結子会社）が判断したものであります。

#### （1）業績の状況

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、個人消費や公共投資を中心に内需が増加しましたが、輸出は中国の成長鈍化や新興国経済の減速などもあって伸び悩み、全体として景気は緩やかな回復となりました。

このような経済環境のもと、当社グループは、国内外での拡販や販売価格の是正およびコストの削減に努め、業容の拡大と収益の確保に注力した結果、売上高は2,804億21百万円と前年同期に比べ266億41百万円（10.5%）の増収となりました。収益面では、営業利益は164億93百万円（前年同期比8億64百万円増、5.5%増益）、経常利益は169億82百万円（前年同期比24億60百万円増、16.9%増益）、四半期純利益は114億29百万円（前年同期比25億32百万円増、28.5%増益）となりました。

なお、報告セグメントおよびその他事業の業績は次のとおりであります。

#### <エラストマー・機能樹脂>

クロロプレナムは、販売数量増や円安による手取り増加により増収となりました。スチレンモノマーやデンカシンガポール社のポリスチレン樹脂等は原燃料価格の上昇に対応した販売価格改定により増収となりました。

この結果、当セグメントの売上高は1,209億31百万円（前年同期比185億94百万円増（18.2%増））、営業利益は26億99百万円（前年同期比26億10百万円増（前年同期は88百万円））となりました。

#### <インフラ・無機材料>

セメントは販売数量が増加し増収となり、特殊混和材や肥料等の販売も前年同期並みとなりました。

この結果、当セグメントの売上高は373億44百万円（前年同期比9億85百万円増（2.7%増））、営業利益は33億44百万円（前年同期比6億48百万円増（24.0%増））となりました。

#### <電子・先端プロダクツ>

電子部品搬送資材用の“デンカサーモシートEC”等の販売は前年同期並みとなり、電子回路基板も回復の動きが見られましたが、半導体封止材用の球状溶融シリカフィラーは需要が低迷し減収となりました。

このほか、LED用蛍光体“アロンブライト”は販売数量が増加し増収となり、デンカアドテックス社では仮固定用接着剤“テンプロック”を使用したスマートフォン用カバーガラス加工品の数量が増加し増収となりました。

この結果、当セグメントの売上高は312億98百万円（前年同期比18億68百万円増（6.4%増））、営業利益は16億68百万円（前年同期比8億20百万円減（33.0%減））となりました。

#### <生活・環境プロダクツ>

農業・土木用途向けのコルゲート管は販売数量が増加し増収となり、合繊かつら用原糸“トヨカロン”は販売数量増や円安による手取り増加により増収となりました。一方、耐候性フッ素系アロイフィルム“DXフィルム”は需要が低迷しておりましたが、第3四半期末にかけては回復の動きが見られました。

医薬では、関節機能改善剤（高分子ヒアルロン酸製剤）の出荷は前年同期並みとなりましたが、デンカ生研株式会社は試薬等の販売が前年を下回りました。

この結果、当セグメントの売上高は604億61百万円（前年同期比4億75百万円減（0.8%減））、営業利益は80億13百万円（前年同期比17億46百万円減（17.9%減））となりました。

## <その他>

株式会社アクロス商事等の商社は取扱量が増加しました。

この結果、売上高は303億86百万円（前年同期比56億68百万円増（22.9%増））、営業利益は7億24百万円（前年同期比1億70百万円増（30.7%増））となりました。

### (2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ200億2百万円増加の4,353億59百万円となりました。流動資産は、売上債権の増加などにより前連結会計年度末に比べ142億92百万円増加の1,728億87百万円となりました。固定資産は、有形固定資産の取得や株式市況の上昇による投資有価証券評価額の増加などにより前連結会計年度末に比べ57億10百万円増加の2,624億72百万円となりました。

負債は、仕入債務や有利子負債の増加により、前連結会計年度末に比べ131億59百万円増加の2,478億6百万円となりました。

少数株主持分を含めた純資産は前連結会計年度末に比べ68億43百万円増加して1,875億52百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の43.1%から42.7%となりました。

### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

#### (株式会社の支配に関する基本方針)

##### I. 基本方針の内容

当社は、石灰石資源と自家発電所を基盤としたカーバイドと化学肥料の生産を出発点として1915年に創業し、カーバイド化学により培った電炉技術・高温反応制御技術・有機合成技術などを基に無機化学から有機化学、さらには電子材料及樹脂加工製品まで非常に幅広い事業領域を有するユニークな化学メーカーとして成長してまいりました。

このような歴史を有する当社事業は、原材料から最終製品に至るまでの工程が非常に長い製品や、多様な領域の自社技術を複合的に活用した製品が多いことを特徴としております。また、これらの事業は、地道な研究開発や保安活動、長期的な視点に基づく設備投資や人材育成、取引先や地域社会との信頼関係などの長年にわたる努力の積み重ねの上に成立しているものであります。換言すれば、多様な技術とそれを複合的に活用できる知識と経験を有する人材が当社の企業価値の源泉であり、脈々と受け継いできた経営資源や信頼関係が企業価値を支える基盤であるということが当社の現状に対する基本認識であります。

近年では、わが国においても、企業の成長戦略として企業買収が多用されるようになってきておりますが、当社取締役会もこのような市場原理に基づくダイナミズムの活用が企業の成長にとって重要なものであると認識しております。また、当社は株式を上場している企業として、多様な価値観を有する株主の存在を認めており、大量買付けを含む当社の支配権の異動については株主の皆様が最終的な判断を下すべきものであると考えております。しかしながら、現実におこなわれてきた大量買付けの中には、対象となる会社の企業価値や株主共同の利益を毀損するおそれのあるものや、これに応じるか否かを判断するために十分な情報と時間が提供されないものなどがあり、すべての大量買付けを無条件に認めることは株主の皆様の付託を受けている経営者として、責任を全うしているとはいいたくないものと考えております。

当社取締役会は、当社の財務および事業の方針を支配する者は、当社の企業価値の源泉を十分に理解し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を継続的かつ持続的に確保、向上していく者である必要があると考えており、下記の項目に該当するような当社株式の大量買付け等に原則として反対することを表明いたします。また、当社株式の大量買付け等が下記の項目に当てはまるか否かを当社または株主が判断するに足る十分な情報と時間を提供しないような場合にも、当社取締役会はそのような大量買付け等に原則として反対の立場をとることいたします。



このような要件に該当する当社株式の大量買付けがおこなわれようとした場合、当社取締役会は、当社の企業価値ひいては株主共同の利益が侵害されるのを防止するため、また、株主の皆様それぞれが納得のいく判断を下すことが可能となる環境を確保するため、法令、金融商品取引所等の諸規則および当社定款の定めが認める範囲内において必要かつ相当な対抗策を講じることを検討してまいります。当社取締役会は、当社株式の大量買付け等について日常的にチェック活動をおこない、株主共同の利益や企業価値を損なうことがないよう、機動的に対応していく所存であります。

## 記

- ①以下に掲げる行為等により、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすおそれのある買付け等である場合
  - (i) 株券等を買占め、その株式等について当社または当社の関係者に対して高値で買取りを要求する行為
  - (ii) 当社の経営を一時的に支配して、当社の重要な資産等を廉価に取得する等当社の犠牲のもとに買付け者等の利益を実現する経営をおこなうような行為
  - (iii) 当社の資産を買付け者等やそのグループ会社等の債務の担保や弁済原資として流用する行為
  - (iv) 当社の経営を一時的に支配して、当社の事業に当面関係していない高価資産等を処分させ、その処分利益をもって、一時的な高配当をさせるか、一時的な高配当による株価の急上昇の機会をねらって高値で売り抜ける行為
- ②強圧的二段階買付け（最初の買付けで全株式の買付けを勧誘することなく、二段階目の買付け条件を不利に設定し、あるいは明確にしないで、公開買付け等の株式買付けをおこなうことをいう。）等株主に株式の売却を事実上強要するおそれのある買付け等である場合
- ③当社取締役会に、当該買付け等に対する代替案を提示するために合理的に必要な期間を与えない買付け等である場合
- ④当社株主に対して、必要情報その他買付け等の内容を判断するために合理的に必要な情報を十分に提供しない買付け等である場合
- ⑤買付け等の条件（対価の価額・種類、買付け等の時期、買付け等の方法の適法性、買付け等の実行の蓋然性、買付け等の後の経営方針または事業計画等を含む。）が当社の本源的価値に鑑み不十分または不適当な買付け等である場合
- ⑥当社の企業価値を生み出すうえで必要不可欠な当社の従業員、取引先等との関係や当社のブランド力を損なうこと等により、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に反する重大なおそれをもたらす買付け等である場合
- ⑦買付け者等の経営者または主要株主に反社会的勢力と関係を有する者が含まれている場合等、公序良俗の観点から買付け者等が当社の支配権を取得することが不適切である場合

## II. 基本方針の実現に資する特別な取組みの概要

### イ. 基本方針の実現に資する特別な取組み

当社では2015年に迎える創業100周年に向けての新たな挑戦として、長年にわたり積上げてきた高い技術力により、「資源」から「価値あるモノ」を生み出す企業となることを目標に、DENKA100と名づけた運動を展開しております。

2013年度からは、経済環境の変化を踏まえ、改めて、2017年度での目標達成に向け、「カーバイドチェーンやスチレンチェーンの収益を基礎として、電子材料や機能・加工製品などの高収益製品を成長分野と成長地域で伸ばす」ことを基本方針に、戦略を見直した上で再スタートを切りました。

具体的には、①海外市場向け製品の現地生産化を進め、国内工場を特殊品・高機能品の生産に特化するなど、生産体制の最適化、②生産プロセス、原材料調達、修繕などのあらゆる項目における、国際競争での生き残りを賭けた徹底的なコストの総点検、③環境、エネルギー、インフラ、健康など、景気に左右されにくく、かつ当社がもつ技術や強みを発揮できる成長分野への経営資源の集中と次世代ニーズに応える新規成長事業の創出、などを通じ、目標の実現を図り、持続的な企業価値の向上に努めております。

また、会社の統治機構改革としては、取締役会の人数削減（2007年）、社外取締役（2名）の導入、取締役の役位の原則廃止による監督と執行の区分の明確化、取締役任期の単年度化（いずれも2008年）など、コーポレートガバナンスの強化を図るとともに、内部監査室の設置（2007年）により監査役、会計監査人と連携した監査の充実を図り、経営の透明性を高めてきております。

ロ. 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針を支配されることを防止するための取組みとして、2008年6月27日開催の第149回定時株主総会において当社株式の大量取得行為に関する対応策（いわゆる事前警告型敵対的買収防衛策、以下「本プラン」という。）を導入いたしました。本プランの有効期限は、2011年6月開催の定時株主総会終結の時までとなっておりますが、当社は2011年4月11日開催の当社取締役会において、本プランの有効期限の終了をもって本プランを継続しないことを決議いたしました。

### Ⅲ. 取締役会の判断およびその判断に係る理由

当社取締役会は、上記Ⅱ. イに記載した取組みは、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を向上させることを目的として実施するものであり、当社の基本方針実現に資するものであると考えております。そして、これらの取組みは、株主の共同の利益に合致したものであり当社役員の地位の維持を目的としたものではありません。

#### (4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、80億89百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありませんが、当社グループでは、新事業・新テーマ創出につなげるべく、NIMS-DENKA 次世代材料研究センターの設置や、山形大学との包括共同研究契約の締結など、外部研究機関と連携したオープンイノベーションも積極的に推進しております。

#### (5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

今後の見通しにつきましては、国内景気は、個人消費や公共投資を中心とした内需の増加により全体として緩やかな回復が続くと見込まれますが、一方で、海外景気の下振れリスクや原燃料価格の上昇などの懸念材料もあり、先行きは依然として不透明であり予断を許しません。

このような状況の下、当社グループでは「生産体制の最適化」「徹底したコストの総点検」および「新たな成長ドライバーへの経営資源集中と次世代製品開発への取組み」の3つの成長戦略を推進いたします。また、震災復興が急がれる国内においては、特長ある製品群の供給を通じて復興への貢献を果たしてまいります。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,584,070,000
計	1,584,070,000

###### ②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	481,883,837	481,883,837	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 1,000株
計	481,883,837	481,883,837	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日	—	481,883,837	—	36,998	—	49,284

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 15,979,000	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 463,063,000	463,063	—
単元未満株式	普通株式 2,841,837	—	—
発行済株式総数	481,883,837	—	—
総株主の議決権	—	463,063	—

(注) 「完全議決権株式 (その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が13,000株含まれております。また、「議決権の数」欄に、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数13個が含まれております。

② 【自己株式等】

平成25年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
電気化学工業株式会社	東京都中央区日本橋 室町2丁目1番1号	15,929,000	—	15,929,000	3.30
黒部川電力株式会社	東京都港区虎ノ門 2丁目8番1号	50,000	—	50,000	0.01
計	—	15,979,000	—	15,979,000	3.31

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	10,800	8,581
受取手形及び売掛金	※1 77,111	※1 91,495
商品及び製品	41,565	41,844
仕掛品	3,296	1,806
原材料及び貯蔵品	15,850	18,311
繰延税金資産	2,118	1,441
その他	8,355	9,765
貸倒引当金	△503	△359
流動資産合計	158,595	172,887
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	51,441	53,201
機械装置及び運搬具（純額）	79,460	79,710
工具、器具及び備品（純額）	2,605	2,682
土地	63,512	62,733
リース資産（純額）	258	309
建設仮勘定	8,936	10,165
有形固定資産合計	206,214	208,803
無形固定資産		
特許権	555	582
ソフトウェア	495	409
その他	193	189
無形固定資産合計	1,243	1,181
投資その他の資産		
投資有価証券	42,665	45,424
長期貸付金	728	878
繰延税金資産	1,072	1,100
その他	4,985	5,205
貸倒引当金	△148	△121
投資その他の資産合計	49,303	52,486
固定資産合計	256,761	262,472
資産合計	415,356	435,359

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※1 55,226	※1 62,817
短期借入金	40,551	46,258
コマーシャル・ペーパー	14,000	10,000
1年内返済予定の長期借入金	6,534	944
1年内償還予定の社債	10,000	5,000
未払法人税等	4,264	2,835
未払消費税等	421	679
繰延税金負債	2	15
賞与引当金	2,406	790
その他	37,345	37,026
流動負債合計	170,752	166,367
固定負債		
社債	15,000	25,000
長期借入金	28,156	34,914
繰延税金負債	3,068	3,835
再評価に係る繰延税金負債	9,609	9,609
退職給付引当金	7,191	7,204
その他	869	874
固定負債合計	63,894	81,438
負債合計	234,647	247,806
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	36,998	36,998
資本剰余金	49,284	49,284
利益剰余金	80,693	87,418
自己株式	△1,933	△4,947
株主資本合計	165,043	168,753
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,516	8,779
土地再評価差額金	9,064	9,065
為替換算調整勘定	△2,623	△802
その他の包括利益累計額合計	13,957	17,042
少数株主持分	1,707	1,756
純資産合計	180,709	187,552
負債純資産合計	415,356	435,359

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
【四半期連結損益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
売上高	253,779	280,421
売上原価	198,069	221,977
売上総利益	55,709	58,443
販売費及び一般管理費	40,081	41,950
営業利益	15,628	16,493
営業外収益		
受取利息	64	54
受取配当金	784	894
持分法による投資利益	521	443
為替差益	345	1,563
その他	674	547
営業外収益合計	2,391	3,504
営業外費用		
支払利息	904	760
固定資産処分損	684	706
その他	1,909	1,548
営業外費用合計	3,498	3,015
経常利益	14,521	16,982
特別損失		
固定資産売却損	—	281
投資有価証券評価損	200	—
事業整理損	389	—
特別損失合計	589	281
税金等調整前四半期純利益	13,931	16,700
法人税、住民税及び事業税	4,929	5,254
少数株主損益調整前四半期純利益	9,002	11,446
少数株主利益	105	17
四半期純利益	8,896	11,429



【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	9,002	11,446
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△433	1,289
繰延ヘッジ損益	1	—
為替換算調整勘定	△105	1,834
持分法適用会社に対する持分相当額	△29	26
その他の包括利益合計	△567	3,150
四半期包括利益	8,435	14,596
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	8,358	14,512
少数株主に係る四半期包括利益	76	84

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

※1 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当四半期連結会計期間の末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当四半期連結会計期間末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
受取手形	792百万円	1,016百万円
支払手形	1,818 "	1,692 "

2 偶発債務

・保証債務

次の関係会社等について、金融機関からの借入などに対し債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
Akros Trading Malaysia Sdn Bhd	133百万円	デンカコンクリート㈱	118百万円
デンカコンクリート㈱	124 "	大間々デンカ生コン㈱	99 "
上越デンカ生コン㈱	100 "	上越デンカ生コン㈱	84 "
男鹿合同生コン㈱	88 "	男鹿合同生コン㈱	81 "
大間々デンカ生コン㈱	43 "	Akros Trading Malaysia Sdn Bhd	74 "
その他5社	311 "	その他7社	267 "
計	802 "	計	724 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
減価償却費	16,066百万円	16,773百万円
のれんの償却額	674 "	—

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月22日 定時株主総会	普通株式	2,409	5.00	平成24年3月31日	平成24年6月25日	利益剰余金
平成24年11月7日 取締役会	普通株式	2,374	5.00	平成24年9月30日	平成24年12月3日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行および株主価値の向上を図るため、平成24年6月11日開催の取締役会決議に基づき、当第3四半期連結累計期間において自己株式の取得および消却を行っております。

(自己株式の取得)

当第3四半期連結累計期間において自己株式が1,951百万円増加しております。

(自己株式の消却)

平成24年6月13日に自己株式の消却を行い、当第3四半期連結累計期間において自己株式が6,412百万円、資本剰余金が8百万円、利益剰余金が6,403百万円それぞれ減少しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月21日 定時株主総会	普通株式	2,374	5.00	平成25年3月31日	平成25年6月24日	利益剰余金
平成25年11月8日 取締役会	普通株式	2,329	5.00	平成25年9月30日	平成25年12月3日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行および株主価値の向上を図るため、平成25年6月17日付取締役会決議に基づき、当第3四半期連結累計期間において自己株式の取得を行っております。

(自己株式の取得)

当第3四半期連結累計期間において自己株式が3,014百万円増加しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 事業 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	エラスト マー・機 能樹脂	インフ ラ・無機 材料	電子・先 端プロダ クツ	生活・環 境プロダ クツ	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	102,337	36,358	29,429	60,936	229,062	24,717	253,779	—	253,779 (注) 4
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	741	3	4	5	754	4,735	5,489	(5,489)	—
計	103,078	36,362	29,433	60,942	229,816	29,452	259,269	(5,489)	253,779
セグメント 利益	88	2,696	2,489	9,760	15,034	554	15,589	39	15,628

(注) 1. 「その他事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プラントエンジニアリング事業、商社事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額39百万円は、セグメント間取引消去39百万円によるものです。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. このうち、海外売上高は75,993百万円(29.9%)であります。

なお、海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自平成25年4月1日至平成25年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 事業 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	エラスト マー・機 能樹脂	インフ ラ・無機 材料	電子・先 端プロダ クツ	生活・環 境プロダ クツ	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	120,931	37,344	31,298	60,461	250,035	30,386	280,421	—	280,421 (注) 4
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	130	—	2	25	158	4,162	4,320	(4,320)	—
計	121,061	37,344	31,300	60,487	250,193	34,548	284,741	(4,320)	280,421
セグメント 利益	2,699	3,344	1,668	8,013	15,726	724	16,451	41	16,493

(注) 1. 「その他事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プラントエンジニアリング事業、商社事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額41百万円は、セグメント間取引消去41百万円によるものです。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. このうち、海外売上高は92,395百万円（32.9%）であります。

なお、海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社では、平成25年4月1日付で、より市場に密着した製品展開を図るべく、分野別に4つの部門に再編を行いました。これにあわせ報告セグメント名称についても第1四半期連結会計期間より以下のとおり変更しておりますが、各セグメントに含まれる製品は従来と変更していません。このため、当名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。また、これに伴い前第3四半期連結累計期間につきましても、当第3四半期連結累計期間と同様に記載しております。

従来（平成25年3月31日まで）	変更後（平成25年4月1日より）
有機系素材	エラストマー・機能樹脂
無機系素材	インフラ・無機材料
電子材料	電子・先端プロダクツ
機能・加工製品	生活・環境プロダクツ

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
1 株当たり四半期純利益金額	18円65銭	24円42銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 (百万円)	8,896	11,429
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額 (百万円)	8,896	11,429
普通株式の期中平均株式数 (千株)	476,911	468,091

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

平成25年11月8日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額……………2,329百万円

(ロ) 1株当たりの金額……………5円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………平成25年12月3日

(注) 平成25年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、支払いを行っております。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月14日

電気化学工業株式会社

取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 百井 俊次 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 薬袋 政彦 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 矢部 直哉 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている電気化学工業株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、電気化学工業株式会社及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。